那賀ウッド　木粉

CFP 算定報告書

2026 年 10 月

株式会社エイト日本技術開発

目　　次

1. 一般項目 1

2. 算定目的 1

3. 調査範囲 1

3-1 対象製品 1
3-2 システム境界とライフサイクルフロー図 1
3-3 カットオフ基準 3

4. データ品質基準 3

4-1 データ品質基準 3
4-2 配分手順 3

5. データ収集項目 4

5-1 データ収集項目 4
5-2 シナリオ及びそのルール 4

6. 算定結果 5

6-1 CO_2 排出量 5
6-2 結果の解釈 5

7. 限界 5

1. 一般項目

報告書作成者	株式会社エイト日本技術開発
CFP算定実施者	株式会社エイト日本技術開発　川瀬翔太 周藤颯志
CFP算定責任者	株式会社エイト日本技術開発　周藤颯志
報告書作成日	2026年10月30日
参考規格	ISO 14067:2018及び カーボンフットプリントガイドライン（2023年5月、経済産業省、環境省）

2. 算定目的

本算定は、徳島県那賀町において、森林資源を活用した地域活性化と脱炭素社会の実現を目指すプロジェクト「モリモリ NAKA」の一環として実施する。モリモリ NAKA は、森林率 95%を有する那賀町の豊富な森林資源に着目し、「脱炭素の町・那賀町」の実現に向けて地域事業者が連携して取り組む活動である。

本算定では、那賀町に所在する那賀ウッドの生産する木粉に対して算定を実施する。算定結果はモリモリ NAKA の Web サイト及びふるさと納税サイトにおいて公開し、製品の環境情報を消費者へ提供するとともに、地域産品の脱炭素価値の発信に活用することを目的とする。

なお、本算定は対象製品の温室効果ガス排出量を定量的に把握し、情報提供及び製品設計上の検討に活用することを目的としており、他製品との比較主張を行うものではない。

3. 調査範囲

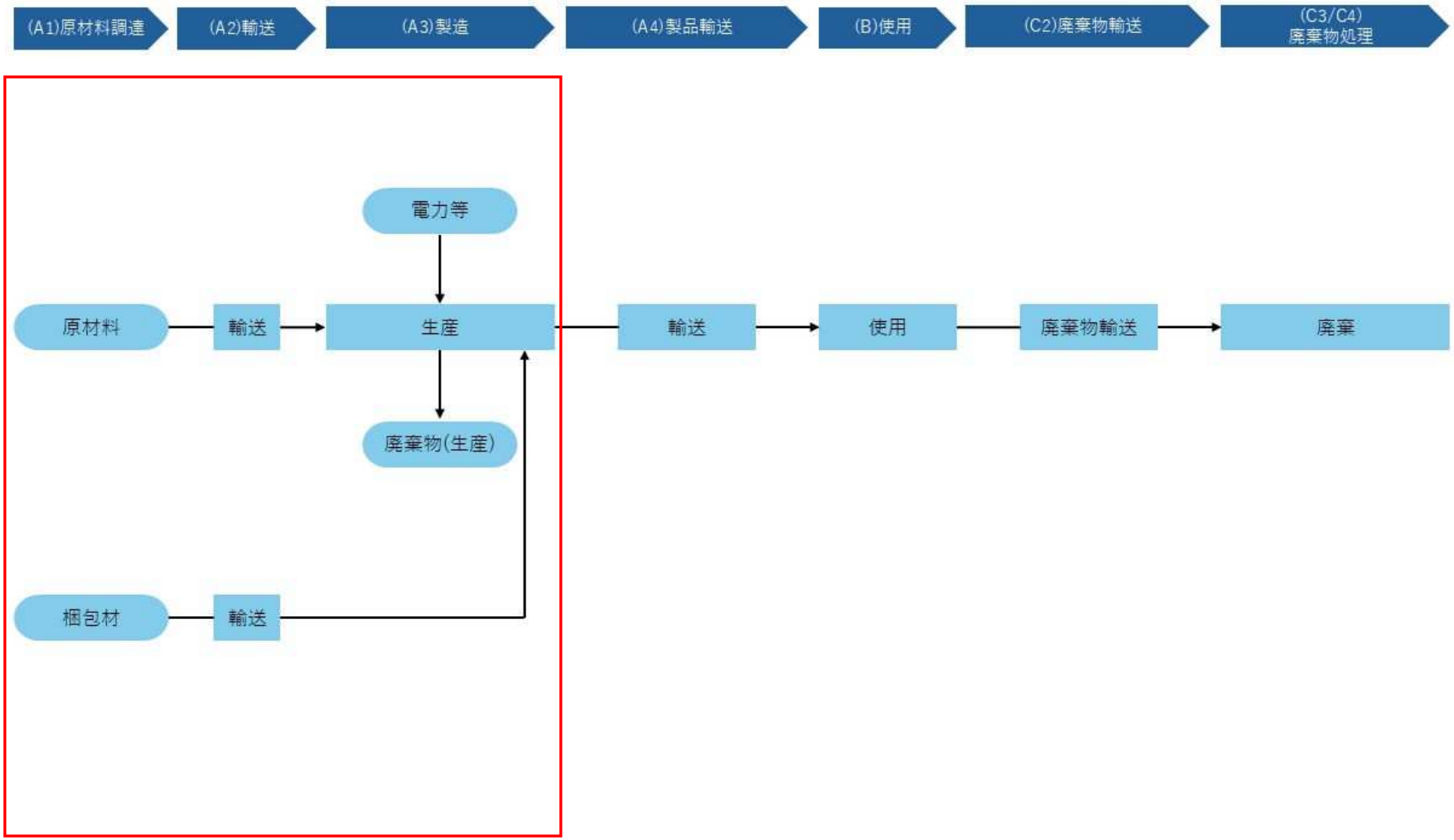
3-1　対象製品

算定対象製品名	木粉
機能単位（宣言単位）	1kg

3-2　システム境界とライフサイクルフロー図

木粉の作成に必要となる原材料の調達から製造までをシステム境界とする（Cradle to Gate）。また、工場建屋の建設・維持管理並びに製造設備及び工具の製造・更新に伴う環境負荷については、製品への配分が困難であり、かつ算定結果への影響が限定的と考えられることから算定対象外とした。

次ページにライフサイクルフロー図を示す。なお、赤枠で囲った範囲を本算定のシステム境界とする。


(A1)原材料調達
(A2)輸送
(A3)製造
(A4)製品輸送
(B)使用
(C2)廃棄物輸送
(C3/C4)
廃棄物処理
電力等
原材料
輸送
生産
輸送
使用
廃棄物輸送
廃棄
廃棄物(生産)
梱包材
輸送

3-3　カットオフ基準

本算定では、製品のライフサイクルにおける温室効果ガス排出量への寄与が 5%以下と判断される項目についてカットオフを適用した。本算定においては、原材料を製造工場へ輸送する際の梱包資材及び、製品を梱包する際に使用するエアダスターについてはカットオフを行った。

4. データ品質基準

4-1　データ品質基準

時間的有効範囲	原材料使用量の1次データは2025年10月から2026年4月生産実績から算定した。また、エネルギー使用量については対象期間中のエネルギー使用量と生産量から按分を行った。2次データは2026年10月現在の最新のデータを用いた。
地理的有効範囲	徳島県那賀町に所在する那賀ウッドを対象とした。
技術的有効範囲	対象製品の実際の製造工程を反映した1次データを使用した。
精度	原材料使用量、電力使用量、輸送条件については実測値に基づく1次データを使用した。輸送条件については、一部収集困難なデータが存在していたため、シナリオ(p.4)にて対応した。
完全性	原材料調達から生産までのライフサイクルを対象とした。
代表性	7カ月分のデータより算定しており、代表性は一定程度確保されている。なお、製造工程における季節変動は小さい。
整合性	すべてのライフサイクル段階について、同一の算定ルール及びCORDに搭載された排出係数データベースを用いて算定しており、整合性は確保されている。
再現性	活動量データ、算定条件及び出典を記録しており、時間的有効範囲において再現性は確保されている。
不確実性	主要データは2025年10月から2026年4月までの実測値を使用しており、不確実性は小さい。一方で、包装資材の輸送条件についてはシナリオを適用したため、限定的な不確実性を有する。

4-2　配分手順

対象製品の生産工程において、主製品である木粉のほかに、副産物として規定粒径を超過した規格外品が発生する。規格外品は廃棄物ではなく、有価物として別途販売される。そのため、本算定では規格外品の再加工、輸送等の環境負荷はシステム外とした。また、原材料調達及び生産段階で投入される資源については主製品である木粉に帰属するものとして扱った。

5. データ収集項目

5-1　データ収集項目

インプット	モジュール	データの種類
スギ板材	A1	1次データ
	A2	1次データ
ポリ袋	A1	1次データ
	A2	シナリオ
ガラ袋	A1	1次データ
	A2	シナリオ
電力	A3	1次データ
ガソリン	A3	1次データ
軽油	A3	1次データ
混合油(ガソリン)	A3	1次データ
混合油(2サイクルオイル)	A3	1次データ

5-2　シナリオ及びそのルール

一部の輸送条件について、実績データの取得が困難であったことから、以下のシナリオを設定した。

・県内で調達から輸送が完結する原材料については、輸送距離を 100km とした。
・国内輸送については、輸送距離を 1,000km とした。
・海上輸送については、原材料の原産国ごとに主要輸出港と日本国内の主要輸入港との間の航路距離を設定した。

木材中に固定される生物由来炭素については、+1/-1 アプローチを適用する。木材が製品システムへ投入される際には、生物由来炭素を-1kg-CO_2e/kg-CO_2として計上する。また、製造工程で発生する副産物については、すべて再利用・有価販売されており、当社サイト内での廃棄・焼却はない。そのため、算定対象範囲内において、生物由来炭素が CO_2 として排出される活動はなく、＋1 計上を行わない。製品として出荷された木材中の生物由来炭素は、使用期間中に継続して貯蔵されるものとして取り扱う。

生物由来炭素の算出方法は以下のとおりである。

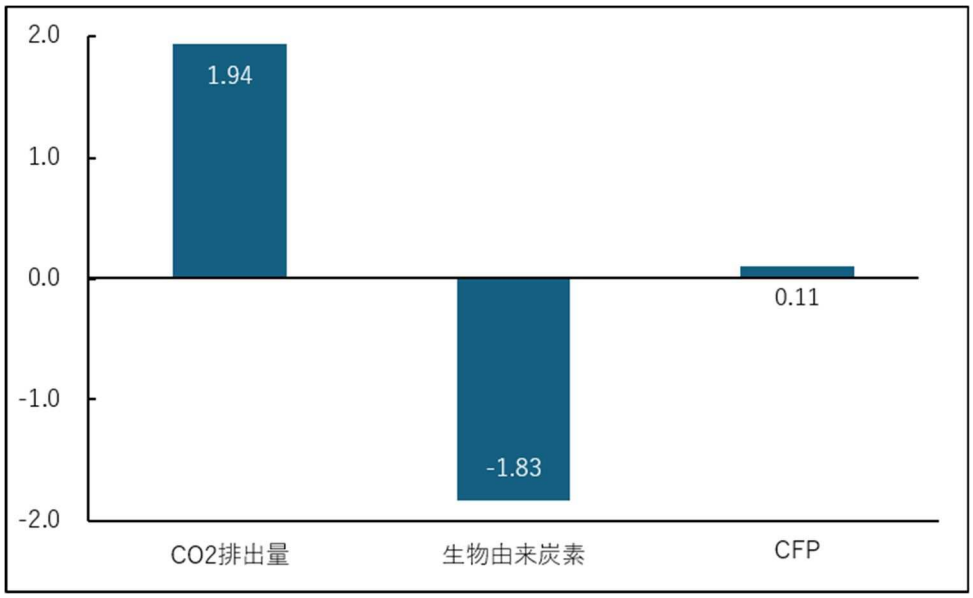
炭素貯蔵量(kg-CO_2)＝木材重量(kg)×木材の炭素含有率(0.5)×44/12

6. 算定結果

6-1　CO_2 排出量

対象製品の各製造工程における CO_2 排出量は以下の通りである。

工程	CO_2排出量 (kg-CO_2e)	各工程が占める CO_2排出割合(%)
原材料調達	1.48	76.2
生産	0.46	23.8
計	1.94	100.0



6-2　結果の解釈

対象製品の CFP においては原材料調達段階の寄与が大きく、主にスギ板材が算定結果に与える影響が大きいことが確認された。

加えて、本製品は木材を主材料とする木質製品であり、使用期間中は木材中に固定された炭素を貯蔵し続ける特徴を有している。参考として、本製品には約 1.83kg-CO_2e の炭素が貯蔵されているものと考えられ、木材利用は炭素の長期貯蔵の観点からも意義を有する。

7. 限界

本算定では、2025 年 10 月から 2026 年 4 月までの実測データを用いて算定を実施したが、一部の包装資材については調達時の輸送経路が不明であったため、輸送シナリオを適用した。また、木粉製造工程において発生する規格外品は有価物として販売されるため、本算定では規格外品の再加工、輸送及び販売段階の環境負荷を対象外としている。そのため、実際のサプライチェーンにおける環境負荷との間に差異が生じる可能性がある。